

# 子どもの文字からわかること

文字を通して子どもを理解するポイントについて  
ご紹介する連載、最終回です。

広島大学大学院教授 松本仁志

本連載は、書写指導における「子ども理解」の方法や考え方について、次の三点からご紹介しています。

- ① 子どもの文字や書写の学習に対するメンタルの理解
- ② 子どもの文字を書く過程に対する理解
- ③ 子どもの書く(書いた)文字に対する理解



最終回は、「③子どもの書く(書いた)文字に対する理解」の視点から、子どもの文字から読み取れる情報の指導への生かし方について解説します。

## ① 文字を「形(運動)」として捉えているか

生活の中で読み書きをする場合、私たちは文字を「記号」として捉えます。「完」の場合は、「完」という文字を「終える、終わる」を意味する記号として捉えて使うわけです。いっぽう、字形や運筆の学習である書写では、文字を「形(動き)」として捉えなければ学習が成り立ちません。

ここで児童Aの「完」の字を見てみましょう。点画を書く際の始筆、送筆、終筆の意識が乏しいこと、長短、方向などの字形を整えるために必要な要素への意識が不

本人の心を大切に対処することが必要です。仮に習字教室での指導が教師自身の指導と異なっているとしても、学校教育の指導と大きく矛盾しないのであれば静観することも方法です。

## ③ 子どもに共通する字形の傾向

子どもの文字をたくさん観察していると、複数の子どもに共通する字形の傾向が見えてきます。例えば左図のようなものがあります。「計」の例は、水平・垂直の感覚に影響されやすい、「群」の例は、「三」の二画目は短いという頭の中の基準形に引きずられやすいという、子どもによく見られる傾向が表れています。

他にもたくさんの傾向が見られます。発



※「計」の形の二画を右上がりに書くように指導すると左に傾いてしまう。

※「群」の形の二画目が極端に短くなってしまう。



1964年、千葉県生まれ。専門は書写書道教育。光村図書小学校・中学校『書写』教科書編集委員。著書に『筆順のはなし』(中央公論新社)、『書くこと』の学びを支える国語科書写の展開』(三省堂)など。

十分であることなどが見て取れます。特に二画目を見ると、「止め」を払ってしまっていることがわかります。どうやら児童Aは、文字を「記号」として捉えていて、「形(動き)」として捉えることがうまくできていないようです。それではなぜ「形(動き)」としてうまく捉えられないのでしょうか。

二つの理由が考えられます。一つは、そもそも書写学習に興味がないという理由です。児童の意識としては「面倒だから」とりあえず『完』を書いただけ」ということになり。もう一つは、手本の字形を分析的に見る視点もてていないという理由です。基礎的・基本的な知識や技能が不足しているために、手本を字形として捉えようとしても焦点化できないのです。この状態が長く続くと、一つ目の理由である学習意欲の乏しさにつながります。意義の感じられないつまらない学習として毛筆書写を捉

見したときに、「なぜそうなるのだろうか?」と原因を考える習慣をつけると、そこに指導の方向性が見えてきます。

## ④ 子どもの文字を追体験しよう

以上のように、子どもが書いた文字には、指導につながるたくさんの情報があります。それらは日々の指導に生かしていかなければなりません。

そこで、おすすめするのが、「なぜこのような形になるのだろう」と考えながら、子どもの書いた字形を手本として教師が同じように書いてみることです。筆の軸の角度、筆圧、筆速などを要素として変えながら追求していくと、子どもが書いた形にたどりつきます。これを繰り返すことで、子どもの字を見たときに指導が必要な点や効果的な指導のしかたがわかるようになります。

「子ども理解」を踏まえた書写指導に関する連載はこれで終わりです。「子ども理解」を踏まえた個別の対応は、一見手間のようには思えますが、コツさえつかめれば必ず効果が効率的・効果的に回り出します。ぜひ取り組んでみてください。

次に児童Bと児童Cの「完」を比べて見てみましょう。児童Bの文字は、教材文字(手本)の書き方を理解し、忠実に書かれています。一方、児童Cの文字は、教材文字(手本)よりも右上がり強く、線の太い細いも強調されており、運筆に勢いがあるように見えます。上手に見えるコツを心得ている書き方であり、それは教材文字(手本)で求められている範囲を超えています。この児童は習字教室などで指導を受けていることが推測できます。

このような児童には、不幸な葛藤を生じさせないことが肝要です。習字教室と書写では、その目的が異なるため、時に矛盾が生じることがあります。習字教室の先生が学校の先生の言っていることを否定し、学校の先生は習字教室のことは学校に持ち込むなどと言ったとしたら、児童の気持ちはどうでしょう? 児童Cのような場合は、

## ② 習字教室などでの書写学習の経験